Numerical analysis of fracture and mixing process of fine particle aggregate under simple shear flow

> O. Koike^{*}, R. Tatsumi[†], Y. Yamaguchi^{*} * PIA, † UTokyo

単純剪断場における微粒子凝集体の 解砕と混合過程の数値解析

小池 修*・辰巳 怜†・山口 由岐夫*

本日の概略

- ・材料機能の獲得には、前工程である、 混練分散プロセスの重要性を認識している
- ・混練分散を「プロセス-構造-機能」で理解することを念頭に、
 低粘度系から高粘度系まで意識している。

・単純剪断場での凝集体の解砕条件を導出、及び混合過程を考察

・そのアプローチにはSNAPによるシミュレーションを実施





凝集状態と発現特性



化学工学会第51回秋季大会 2020.9.24

粗視化MD;バネビーズモデル



DLA 拡散律速凝集





RLA 反応律速凝集



化学工学会第51回秋季大会 2020.9.24

凝集体構造:

製造方法に依存

物理/化学結合にも依存



* S. R. Raghavan & S. A. Khan, Journal of Colloid and Interface Science, 185 (1997) 57



5/22







解像度



粒子に働く力・トルクを高精度に 計算できる



流体力・流体トルク→
1格子中の粒子数と
流体・粒子速度の関数で与える

充填率の高い領域における 粒子運動の精度は粗いが大きな領 域を計算出来る:流動床など

運動方程式:流体(連続描像)

質量保存(非圧縮) $\nabla \cdot v = 0$





化学工学会第51回秋季大会 2020.9.24

粒子-流体連成項

$$\alpha = \frac{v_p - v}{\Delta t} + v \cdot \nabla v - v \nabla^2 v - \frac{1}{\rho_f} \nabla \cdot S$$

 $\frac{v^{n+1} - v^n}{\Delta t} = \frac{v_p - v^n}{\Delta t}$: 粒子内部

8/22

運動方程式:粒子(離散描像)
並進運動
$$m\frac{dv}{dt} = F^{co} + F^{D} + F^{h}$$
(確加) (通知) (流体力)
$$F^{h} = -\int_{V} \rho_{t} \phi_{p}(x) \alpha(x) dV$$
回転運動
$$I \frac{d\omega}{dt} = T^{co} + T^{h}$$
(接触トルク) (流体トルク)
$$T^{h} = -\int_{V} \{r_{p}(x) \times \rho_{t} \phi_{p}(x) \alpha(x)\} dV$$
Etementation with the set of t

準備①:剪断応力を無次元化



無次元剪断応力*t**を定義: 発生させる剪断応力を相対的に捉え, 解砕計算をする



Figure 5. Maximum shear stress acting on EVOH, PC, PS and PFA during their melt-compounding under present experimental conditions as a function of temperature of polymer melt: \bigcirc , EVOH (at N=200 rpm); \triangle , PC (at N=180 rpm); $\mathbf{\nabla}$, PS (at N=200 rpm); $\mathbf{\Box}$, PFA (at N=240 rpm).





$$\tau^* = \tau_f / \tau_p = 1 - 10$$

準備③:分散度の評価指標

Nondimensional Boundary Area: NBA



► NBA = 1 : 完全分散 NBA = 0 : 最密充填 幾何学的意味









計算領域	:	$11d \times 11d \times 11d$
粒子数	:	500
体積率	:	0.2
凝集体径	:	~10 <i>d</i>
剪断応力	τ*	: 0.01 - 5.0
付着力		:van der Waals力型
印加ひずる	みを	$\dot{y}t = 100$





*単純剪断場中の分散は等方的ではない



計算結果

d = 100

- 解砕過程とNBA・みかけ粘度-



化学工学会第51回秋季大会 2020.9.24

みかけ粘度 $\mu_{a}= au_{w}/\dot{\gamma}$





*傾向はほぼ一致

無次元剪断応力とNBA















まとめ

・各物性値から"無次元剪断応力"を定義すると解砕条件が議論可能

・分散過程は"歪み"と"無次元化剪断応力"で記述可能だと考えられ、 分散の実速度は"解砕に必要な歪み"と"実際の剪断率"で展開

・分散過程の考察には、印加する変形モードの特徴が肝要

・ 例えば、 単純せん断場での分散は非等方的

・粒子とトレーサー軌道と可視化は, 分散剤輸送吸着の最適化やモデル構築の近道になり得る